

学校紹介

School

夢を追求し実現する

— これまでの村工 これからの彩工 —

彩星工科高等学校長 吉田 耕造

1. 学校紹介

1920（大正9）年11月3日、本校は神戸村野徒弟学校として設置認可され、兵庫県神戸市長田区の地に103年の歴史を積み重ねている県下唯一の私立の工業高校・男子校である。

創立者・村野山人（むらのさんじん）は大正のはじめ、「日本の近代化を進めるためには、西洋の優れた工業技術・技能を駆使できる人材の育成が急務である」として本校を設立した。そして、神戸村野工業学校は「人は人のために尽くすを以って本分とすべし」の建学の理念のもと、機械科クラス57名でスタートした。

その後、幾多の変遷を経て、現在は機械科、電気科、情報技術科、機械電子科、普通科の1学年5学科13クラス編成である。

これまで100年の神戸村野工業高等学校の歩みと、これから100年に向かって進む新たな彩星工科高等学校づくりを紹介する。

2. 創立者は「鉄道王」

創立者・村野山人は政財界で尽力された人物である。実業界では公共事業の開発に努められ、山陽鉄道（現在のJR西日本）をはじめ多くの鉄道会社の設立発起人となり、南海電気鉄道や京阪電気鉄道、神戸電気鉄道などの経営や運営に携われ、「鉄道王」と称された。また、政界では、神戸区長（現在の神戸市長）や神戸商業会議所（現在の神戸商工会議所）会頭、国会議員などを務められ、公共の福祉に尽力された。

常に人のため、社会のために尽くされた山人

翁の遺訓、「人は人のために尽くすを以って本分とすべし」は本校の建学の理念として脈々と伝えられている。

3. 神戸村野工業学校時代

1921（大正10）年4月、徒弟学校規定の廃止により、校名を神戸村野工業学校と改定して開校した。しかし、創立者・村野山人は同年1月に逝去され、開校を見ることはなかった。

創立者の願いである「立派な工業人育成」を具現化するために機械科の設備が充実された。

当時ドイツ製の30馬力ディーゼルエンジンを設置した時は、川崎重工をはじめ民間会社から技術者が毎日のように見学に来校したといわれる。また、自動車や政府から寄贈されたフランス製の飛行機も整備されて実習が行われた。



飛行機実習

戦時中には勤労動員の一环として神戸発動機（現在のジャパンエンジンコーポレーション）と協定し、機械科の実習工場が学校内工場として活用された。

そして、工業生産増大が課題であった時代の

要請に応え、必要とされる技術者育成を目的として、電気分科、紡績分科、電気科、造船科と新しい学科が設置された。

4. 戦後の学制改革と村工の復興

1948（昭和23）年、学制改革により旧制工業学校から新制工業高等学校へと移行し、校名を神戸村野工業高等学校と改定した。

(1) 困難を極めた本校の戦後復興

戦後の物資不足の中、私立学校の立て直しは困難を極めた。この窮状を乗り越えるための収益事業として「講会」と「運営会」が行われた。

① 「講会」とは、頼母子講のことで、講員が掛金を出し合って運営する民間の金融組合であり、毎月第1・第3土曜日、生徒下校後の午後1時から講堂を会場とし、全職員が分担して受付、記帳、講金の受領などを行った。

② 「運営会」とは、約10人の専属従業員を雇用し、本校実習工場の大型機械6台を使って、町工場から機械器具の部品加工を請け負う事業組織で、校内に事業運営会を組織し、1955（昭和30）年から1965（昭和40）年末まで約10年間にわたって活動した。

(2) 教育体制の充実

1951（昭和26）年の産業教育振興法の制定から、実習内容の見直し、高度経済成長、ベビーブームによる中学卒業者数の増加、高校進学率の上昇など、戦後の高等学校を取り巻く環境は変化し、整備され充実していった。

① 本校校舎の新築・増築ラッシュ

1952（昭和27）年、復興教室として鉄筋コンクリート4階建8教室（現存の第2校舎の一部）の建設着工を皮切りに、校舎、講堂、実習棟などが次々に建設された。

★トピックス

1965（昭和40）年度の生徒総定員は1800名（1学年、機械科8学級、電気科4学級）、入学者数は807名（機械科499名、電気科308名）となり、全国的にも大規模な学校となった。



鉄筋コンクリート4階建8教室

② 普通科を新設

1975（昭和50）年、普通科を新設した。高校進学率の上昇、大学進学率の上昇に伴う普通科高校希望者の増加により、本校も普通科を設置した。

③ CAI教室の立ち上げ

1986（昭和61）年4月、普通科にCAI教室を立ち上げた。教師のパソコンと50台の生徒用パソコンをつなぐLAN学習システムを導入した。本校教員が開発したソフトで授業を行ったことでマスコミにも話題となった。

④ 情報電子科を新設

1988（昭和63）年4月、高度情報社会に対応するために、情報電子科（現在の情報技術科）を新設した。コンピュータとエレクトロニクス技術の基礎を理解し、機器の活用能力を身に付ける。本格的な電子回路の技術教育を実施し、3年間で400時間以上のコンピュータ学習を行うこととした。

⑤ 奨学優遇制度の実施

1988（昭和63）年、勉強、スポーツ、資格取得などの各分野で健闘して学校をリードする生徒の努力を賞し、栄誉を称える制度を設けた。

(ア) 学業成績優秀者に奨学生制度

(イ) 学年成績優秀者の学年努力賞、学年皆勤賞

(ウ) スポーツ入賞者、資格・検定合格者表彰

(エ) 3ヶ年通しての学業優秀者、皆勤・精勤者

⑥ コース制の導入

1991（平成3）年、産業界の情報化の進展に

に伴い、生徒の興味・関心に沿い、かつ能力を引き出すため、機械科と情報電子科にコース制を導入した。

機械科に「情報機械コース」と「情報原動コース」を、情報電子科に「情報技術コース」と「電子CADコース」を設置した。

⑦ 機械電子科の新設

1996（平成8）年、進展するメカトロニクス化に対応すべく、機械電子科を新設した。教育内容は、電気・電子・情報系の学びに重点を置き、機械加工技能も身に付けることとした。これにより、同年情報電子科の2コースを廃止し、翌年機械科の2コースを廃止した。

(3) 阪神淡路大震災を乗り越えて

1995（平成7）年1月17日に起こった阪神淡路大震災により、本校は建物の倒壊こそ免れたものの校舎3棟に多数の座屈箇所が発生し建て替えを余儀なくされた。

本校がある神戸市長田区は火災も発生し、近隣住民の避難場所となり、また、ご遺体の収容所の依頼を受け、689体のご遺体が安置された。

(4) 人格教育「7HJ」の導入と体系化

学力と人間力の向上を目指す教育を進めた。スティーブン・R・コヴィー博士の「7つの習慣[®]」を高校生向けに作られた教育プログラム「7つの習慣J[®]」（以下、7HJ）を導入し、学校設定科目「7HJ」として2009（平成19）年に1年生に導入した。その後、2年生に「道徳」、3年生に「一般教養」の学校設定科目を導入し、本校独自の人格教育を実施した。

(5) 地域連携、夏休みものづくり教室

2017（平成29）年7月、長田区子供連合会より「ものづくりのまち長田、これを地域の子供たちが誇りに思っていてほしい。そのため高校生からものづくりの楽しさを子供たちに伝えられないだろうか」と依頼があり、夏休みに「夏休みものづくり教室」を開催した。新型コロナ禍では中止し、現在に至っている。

2019（令和元）年度実施教室は、「木工作品」、「電子サイコロ」、「うちわ作り」、「ネームプレート」、「ダンボールウクレレ作り」、「オリジナルTシャツ作り」の6教室が行われた。



夏休みものづくり教室

その他、長田神社例祭（はなみずき祭、夏越ゆかた祭、神幸祭）、高校生鉄人化祭り、大正筋緑日、湊川清掃など、地域活動に積極的に参加し、地域の方々と交流している。

5. これからの100年、彩星工科高等学校へ

創立100年を機にこれまでの村工の強みを生かし、これからの100年に向かって進むために「創立100周年記念事業」を開始した。

(1) ハピネス塾

「村工にかかわる全ての人が、幸せを感じる学校にする」、「社会で自主性を発揮できる人材になる」ために「ハピネス塾」を開催している。

現在の理事長の「人のために尽くすためには、まず自らが夢や喜び、感動といった幸せ＝ハピネスを味わい、生み出していくことが大切である」との思いで始まった。

2018（平成30）年

講師 坪田信貴氏（「ビリギヤル」著者）

演題 「あなたの底力を圧倒的に引き出す5つのポイント」

2019（令和元）年

講師 金本知憲氏（元阪神タイガース監督）

演題 「負けな心」～夢・希望・勇気・継続～

2020（令和2）年（創立100周年記念公演）

演者 宮川彬良&アンサンブル・ベガ

演題 時を感じるコンサート

2021（令和3）年以降

各学年が独自で企画し実施している。

(2) 制服のモデルチェンジ

2018（平成30）年、制服検討委員会を立ち上げ検討し、2020（令和2）年度入学生よりブレザータイプに変更し、学年進行で着用した。

★トピックス

本校のオフィシャルマスコットのムラッコウもモデルチェンジし、2023（令和5）年3月、校名変更を前にムラッコウは卒業した。



1代目



2代目

(3) 普通科のコース制導入

明確な目的意識をもって学ぶために、2019（令和元）年度より普通科に2コースを導入し、現在は3コース・3クラスを設けている。

アドバンスコース…大学進学を目指す

キャリアアップコース…就職・公務員を目指す
スポーツコース…スポーツを通じた学びで未来を目指す

(4) 新校舎建設、夢現プロジェクト

夢を追求し、なりたい自分を実現できる学校へ。この思いを込めて新校舎建設「夢現プロジェクト」をスタートした。学科間や企業・地域との連携をとおり、枠を超えて学べる「ものづくりラボ」や、グループワークや他学科との交流、憩いの場として廊下に設置された「多目的スペース」など、学びをサポートする施設を持つ新校舎が2023（令和5）年2月に完成した。

2023（令和5）年4月、校名を彩星工科高等学校に改定し、新校舎でスタートした。



ものづくりラボ

(5) 3つの育てる力

『自分を信じる』『社会と繋がる』『共に創る』の「3つの育てる力」を軸として、「ものづくり×課題解決で社会に貢献する学校」を実現するために、教育課程を編成して学習活動を進め、「好きをとことん追求する」環境を目指す。

(6) 工業学科の改編

2024（令和6）年4月より、これまでの工業4学科を2系（ものづくり系、電気・情報系）に改編する。生徒は1年生で興味・関心のある学びを見つけ、2年生より自分で選んだ各コース・スタイルで学ぶ。

課題研究を2・3年生連続で実施し、専門性の深化、他系・コースと連携した学びを行う。

ものづくり系（機械）

4スタイル（ウェルダーク・メカニクス・フロンティアテクノロジー・エネルギー）を設け、手作業から最新加工まで、生きた技術を身に付ける。

電気・情報系（電気、情報技術、機械電子）

3コース（電気電子・ITエキスパート・マルチエンジニア）を設け、専門知識・技術をより深いものにする。

6. これからの100年に向かって

「選ぶ」、「つながる」をキーワードにカリキュラムを編成して新たな学校づくりを進めている。生徒の持っている力を認め、3年間で生徒のポテンシャルを引き出す教育に、職員一丸となって邁進してまいりたい。